



●特集■県政この1年 いわて1993

平成5年（1993年）県勢ビッグテン

順位	項 目
1	皇太子同妃両殿下、ご成婚後初の地方公務となる献血運動推進全国大会に続き、国民文化祭にご臨席のためご来県
2	未曾有の大冷害。市町村、農業団体とともに対策に全力
3	'93アルペンスキー世界選手権盛岡・雫石大会開催
4	第8回国民文化祭いわて'93開催
5	NHK大河ドラマ「炎立つ」で全国に平泉文化を紹介
6	久慈国家石油備蓄基地が完成しオイルイン
7	岩手県生物工学研究所、岩手県林業技術センター開所
8	平泉町の柳之御所遺跡保存へ
9	岩手リハビリテーションセンター開設
10	「岩手の景観の保全と創造に関する条例」スタート

岩手にとってさまざまな出来事があった1993年も、足早に暮れようとしています。

年が明けた2月、本県を舞台に'93アルペンスキー世界選手権盛岡・雫石大会が開催されました。季節はずれの雨など不運な天候に見舞われましたが、大会運営に対する県民一丸となつての取り組みが世界中から高く評価され、岩手を世界にアピールした記念すべき大会となりました。

NHKの大河ドラマで東北地方を舞台に平泉文化が広く紹介され、国民の注目が集まるなか、10月、第8回国民文化祭いわて'93が華やかに開催されました。期間中、さまざまな文化や情報が岩手から全国に発信されました。文化祭旗が次期開催地の三重県に手渡された閉会式・グランドフィナーレの感激は、いまだに人々の心に残っています。

また、春先からの異常気象は、本県の農業に大きな被害をもたらしました。作況指数33（10月15日現在）という戦後最悪の不作は、長引く不況とともに暗い影を落とし、その対策に各分野で懸命の努力がなされています。

しかし、総じて、本県は今年大きな歩みを進めたと言えるでしょう。生物工学研究所や林業技術センター、リハビリテーションセンターという各分野の拠点となる施設が相次いで建設され、さまざまな施策がその成果を実らせています。来る1994年に思いを馳せながら、今年一年を振り返ってみましょう。

- 1・1 例年の冷え込みもなく穏やかに明けた1993年
- 1・11 青年の船がマニラに向け出航。少年の船、シルバー洋上セミナー、婦人の船がこの月、相次いで出航した



- 1・13 農山漁村女性の日フェスティバルが盛岡市で開催
- 1・23 岩手の子 身長・体重で全国平均を上回る。4年度の保健調査で
- 1・28 新しい農業を求め新しい農業確立青年の集いが開催された



- 2・3 アジアで初めての'93アルペンスキー世界選手権盛岡・雫石大会は、世界42の国と地域からトップレーサーが集い、この日華やかに開幕した



- 2・9 農業士、農村生活アドバイザーなどが知事と懇談会



- 2・10 密猟防止に新兵器登場。漁業取締船はやちねの竣工式が行われた



- 2・10 農村の活性化を図ろうと、活力ある村づくり研修会が盛岡市で開催された



- 2・14 ノルウェー旋風の中心、オーモットの活躍など、多くの感動を残した世界アルペン大会は、26万人の入場者を記録し、この日閉会した。不運な天候に影響された大会だったが、大会運営への取り組みや県民一丸となつての盛り上がりが世界中から高く評価され、岩手を世界に強くアピールする大会となった
- 2・15 21世紀の長寿社会へ向け、高齢者保健福祉サービスの計画的な推進を図るため、県と市町村は老人福祉計画の策定を開始。県推進協議会が設置された

- 2・22 東北新幹線盛岡・青森間の全線フル規格化と北海道新幹線の早期着工を求め、東京でキャンペーンが行われた



- 3・11 東北インテリジェント・コスモス構想推進岩手県協議会が岩手ビジョンを策定し、産学官が連携した今後の取り組みが推進される
- 3・16 高規格道路の整備進む。三陸縦貫自動車道の新三陸トンネルが開通した



- 3・19 平成4年度県消防表彰式が、盛岡市で行われた。種市町消防団などが受賞



- 3・22 平成5年度当初予算などを可決し、2月定例県議会が閉会

- 3・24 体力測定機器などを満載した健康運動体験車「げんきカー」の発進式が行われた
- 3・26 本県観光の新しいキャッチフレーズが「岩手の風にふれたくて」に決定した。10,351の応募から選ばれた最優秀賞作品
- 4・2 県警察学校入校式では、婦人警官一期生の6人が入学
- 4・14 本県ゆかりの県外在住の方々から県勢発展へ意見や提言を聴く初の県外モニター懇談会が、東京で開催された



- 4・18 日本エアシステム名古屋発DC9型ジェット旅客機が、花巻空港で着陸に失敗。けが人は出たものの大惨事は免れた
- 4・20 最先端の知識と技術を駆使して、バイオテクノロジーの基礎的研究を推進する県生物工学研究所が北上市に誕生した。各試験研究機関との密接な連携のもとに、農作物や林木、海藻や食品微生物などの独創的な品種開発を行う



- 4・22 林業試験場、林業講習所、林木育種場を発展的に統合一体化した、県林業技術センターが矢巾町に開所した。特用林産物の主産地化や生産材の高付加価値化を目指し、林業技術の研究開発を推進する
- 4・22 駐車場やトイレのほかにもさまざまなサービスを提供する多目的休憩施設「道の駅」に本県から3カ所、ビービレッジ区界(川井村)、南部杜氏の里(石鳥谷町)、陸前高田シーサイドターミナル(陸前高田市)が登録された



- 4・23 児童福祉月間にちなみ、恒例のこいのぼりの掲揚式が県庁前で行われた



- 5・7 本県の景観形成のあり方を審議してきた景観形成懇談会から工藤知事へ、「景観形成施策の基本的な在り方について」の提言書が手渡された
- 5・12 釜石市で日向ダムの定礎式
- 5・13 自治体立優良病院表彰で、胆沢病院が自治大臣表彰を受賞した。本年度、3個人が相次いで大臣表彰を受賞する
- 5・17 平成4年度、三陸の夏を燃え上がらせた三陸・海の博覧会の益金10億5千万円を基に三陸・海の博覧会記念基金が正式発足。地域の振興に大きな力となる
- 5・18 防災情報通信網の整備が進む。テレビ会議に初参加
- 5・19 全国約250の商工会議所婦人会の会員約2,700人が来県し、第25回全国商工会議所婦人会連合会総会が開催された
- 5・20 盛岡市のアイスアリーナでいわて就職ガイダンスが開催。過去最高の1,600人の学生らが参加した

- 5・25 平成5年度県勢功労者の表彰式が知事公館で行われた。県婦人消防連絡協議会会長の中野和子さんら7人が受賞した
- 5・28 玉山村藪川地内の岩洞湖畔で平成5年度県植樹祭が開催。1,600人が参加した
- 5・31 県宇宙航空開発推進協議会が発足した
- 6・1 若者の県内定着を推進しようと設立された働いわてふるさと定住財団の開所式が行われた



- 6・1 自然保護意識の啓発や施設の維持補修、美化清掃を一層進めるため、十和田八幡平国立公園の八幡平地区の駐車場が有料化された
- 6・3 県内を訪れる外国人向けに、公共施設名称などを英文表示したガイドブックが作成された
- 6・5 24チーム・約740人が参加し第31回身体障害者体育大会が、盛岡市で開催された



- 6・15 北上中部地方拠点都市地域の基本計画の承認書が、知事から関係8市町村長へ交付された。地域特性を生かし、技術と文化の交流を軸に新しい都市圏の形成を目指す
- 6・16 産学官が一体となつての科学技術の振興で、東北地域の活性化を図ろうと、科学技術と地域振興に関する国際フォーラムが、盛岡市で開催された



- 6・16 雄大な山岳パノラマを満喫できる八幡平樹海ラインが開通した



- 7・2 良好な児童環境づくりを進めようと、子育てにやさしい環境づくり推進会議を設置した

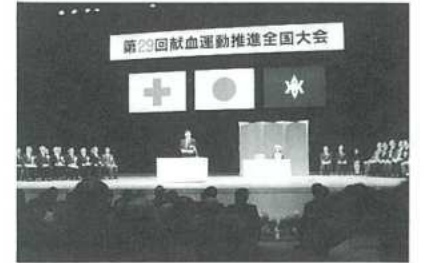
- 7・4 「宝くじスポーツフェア—あなたのまちに名球会がやってくる—」が開催された。プロ野球名球会のスーパースター12人が、葛巻町で野球指導
- 7・4 NHK大河ドラマの野外ロケにも使用された江刺藤原の郷がオープンし、新たな観光拠点が誕生した



- 7・4 健康福祉フェアが一関市で開催された

- 7・5 補正予算案など18議案を可決し、6月定例県議会が閉会した

- 7・8 21世紀へ向けた工業振興の拠点施設・工業技術センターの定礎式が行われた
- 7・14 日本赤十字社の名誉総裁である皇太子殿下、同妃殿下のご臨席のもと、第29回献血運動推進全国大会が盛岡市で開催された



- 7・19 東京大田市場で知事と一緒に市場を視察する会が今年も開催された
- 7・21 盛岡駅西口地区開発の事業が認可された。旧国鉄用地を含む35.5%を8カ年計画で整備し、近代的な街づくりを目指す
- 7・29 この日行われた統一要望では、県と県議会の代表が関係省庁や機関に対し、117項目を陳情した
- 7・30 三陸縦貫自動車道宮古・山田線が、基本計画に組み入れられ、事業化へ一歩前進した
- 7・30 清流ルネッサンスに陸前高田市の川原川が認定された。各種施策を総合的に実施し、良好な水環境を目指す
- 7・30 全国初の産業廃棄物処理モデル施設の起工式が江刺市で行われた。平成7年の完成を目指す
- 8・3 南米移住者12人が里帰り
- 8・4 宇宙飛行士毛利衛さんが本県を訪れ、宇宙授業



8・5 北上市内の国道107号に架かる日高見橋が完成し、約800人が渡り初めを行った



8・10 平成4年度水生生物調査には4,901人が参加し、参加人数で3年連続の第1位。全河川の90%は「きれい」の判定

8・21 産業文化センター（アピオ）でいわてニュースポーツ&レジャーフェスティバルが開催された。22,000人がニュースポーツを満喫した



9・1 国家石油備蓄基地が完成した久慈市で、県など38団体が参加して、総合防災訓練が行われた

9・7 冷夏の影響で心配される農業被害。岩手県農作物異常気象災害対策本部が設置される。県平均の作況指数は33(10月15日現在)と、戦後最悪の凶作となる

9・9 県立久慈病院の移転新築の候補地が決定された。平成9年度の開院を目指す

9・11 盛岡市の運動公園で60歳以上の方々が参加し、県民長寿体育祭が開催された



9・14 岩手大学構内に設置された放送大学岩手ビデオ学習センターの開所式が盛岡市で行われた

9・22 まほろしの高級魚マツカワガレイの人工種苗生産に成功し、今後へ明るい見通し。200尾を放流した

9・22 県農業賞最高賞を大野村が受賞した

10・1 急増するリハビリ需要に対応し、雫石町にいわてリハビリテーションセンターが開院。県内リハビリ医療の中核となる



10・1 小売業者を情報の面から支援する小売商業支援センターの開所式が、盛岡市で行われた

10・2 久慈国家石油備蓄基地のオイルイン。175万割を備蓄する

10・2 木材やシイタケなど林産物を集め、盛岡市中津川原で県林業祭が開催された

10・2 県営11カ所目の発電所、松川発電所が着工。この日、起工式が行われた

10・3 伝統芸能に新趣向を加え、南岩手地域伝統芸能フェスティバルが江刺市で開催された



10・7 補正予算など32議案を可決し、9月定例県議会が閉会した

10・8 海外ゲストも交え、全国から884団体・総勢21,684人が参加した第8回国民文化祭いわて'93は、この日、華やかにスタートした。開会式・オープニングフェスティバルには皇太子殿下、同妃殿下もご臨席され、県内17市町村を会場に、31の事業が盛大に開催された

10・15 今年の県民運動推進大会が、「自然と暮らしのメモリー」をテーマに千厩町で開催され、900人が参加した



10・17 国民文化祭が、期間中、67万人にも及ぶ観客数を記録し、この日閉幕した。閉会式・グランドフィナーレでは、国民文化祭旗が、次期開催県の三重県に手渡された

10・23 今回で21回目を迎えた「いわて農業祭」が盛岡市で開催された

10・26 高まる景観への関心を受け、本県の景観条例がスタート

10・26 県立病院も週4時間勤務制を実施するため、定数条例を改正。274人の増員

10・27 地方の魅力を再発見し、活性化の方策を探ろうと、国土庁主催の全国過疎問題シンポジウムが花巻市で開催された



10・27 県骨髄バンク推進協議会発足

10・29 東京食肉市場で行われた全国肉用牛枝肉共励会で、前沢牛が名誉賞を受賞し、4年連続の日本一を達成した

10・29 日本一の木炭生産を誇る県北6市町村で、日本木炭サミットが開催された。木炭の里を全国にアピールする大会となった



11・4 盛岡・秋田間新幹線直行特急化へ向け、本県分が着工した

11・5 明日の教育を語る県民の集いが盛岡市で行われた



11・11 いわて余暇シンポジウムが盛岡市で開催された



11・11 東京都で行われた第8回農村アメニティ・コンクールでは、葛巻町が優秀賞を受賞した



11・14 県内150人の障害者が参加して、第1回県障害者文化芸術祭が水沢市で開催された

11・16 身近かなところから環境を考えようと、みどり・みずの集いが盛岡市で開催された

11・19 統一要望が行われ、関係省庁・機関に対して120項目の事業の実現や制度改正について陳情した

11・23 農水省の村づくりコンクールで、金ヶ崎町の和光地区が天皇賞を受賞した

11・24 いわて・むらづくりフォーラムが盛岡市で開催された



11・26 これからの国土形成のあり方を考える第1回新たな国土の軸を考えるシンポジウムが盛岡市で開催された

11・26 平泉・柳之御所遺跡を保存へ。一閑遊水地事業・平泉バイパスルートの変更について、建設省が県へ提示した

12・9 障害者や高齢者、全ての県民が交流できる総合福祉施設は、「ふれあいランドいわて」と命名された

12・11 地熱熱水のクリーンなエネルギーの活用を図るデモンストレーション施設として、雫石町に建設されていた県営屋内温水プールがオープン